

高レベル放射性廃棄物処理・処分について @福島工業高等専門学校



みゆカフェ実施後の分析

本対話を通じて、学生の思考は単なる「賛成・反対」の枠組みを超え、資源制約、時間軸(50年、100年、将来世代)、社会制度、教育といった多層的な視点へと広がっていった。技術的合理性と社会的現実の両立を模索し、「完全な安全は存在しない」ことを前提に、どのように管理し、どのように説明し続けるかを考えようとする姿勢が見られた点は、高専生らしい成熟した特徴である。

みゆカフェ手法により、発言量の多寡に左右されることなく、全員が思考に参加できたこと、他者の意見を読みながら自身の考えを更新する様子が確認できたこと、「問いが問いを呼ぶ構造」が可視化されたことは、本手法の有効性を示している。

評価とまとめ

- 本みゆカフェでは、高レベル放射性廃棄物処理・処分を、技術課題にとどめず、資源制約、社会的合意、教育の問題として多角的に捉える議論が行われた。特に、将来世代を視野に入れた思考が学生から自発的に生まれている点は、対話型学習として極めて重要な成果である。
- 学生からは「地層処分のメリット・デメリットを詳しく知ることができた」「これからは自分たちが真剣にエネルギーや発電について考える必要があると感じた」といった感想が寄せられており、本対話が主体的な学びにつながったことがうかがえる。

以上より、本実践は、地層処分を「見えない場所の問題」とせず、将来にわたり考え続けるべき社会課題として捉え直す上で、有効な教育的・対話的手法であったと評価できる。